

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

千葉市中央区の最大瞬間風速57・5はじめ、4都道府県15地点で観測史上最大風速を更新した台風15号。関東への上陸は3年ぶ

り、首都圏を直撃した台風としては過去最強クラス。倒れたゴルフ練習場の支柱が民家を切り裂いた映像はぞっとする。送電線の鉄塔が倒れたりして、1都6県の約90万戸が停電したり、鉄道各社は、始発からの計画運休を前日に決めたが、鉄道再開が遅れて大混乱を招いた。

気象庁が近年よく使う「経験した事のない」とか「50年に一度」といった表現。バハマを直撃したハリケーン「ドリアン」は北部のグランド・バハマ島とアバコ諸島では「壊滅的」と言われる被害が

出た。多くのハリケーンをしのいできた地元民でも、こんなのは初めてとの情報。温暖化による気候変動は世界共通の課題だが、各国の思惑もあるのか具体的な取り組みに至ってはいない。

「経験した事のない」とか「50年に一度」の災害対応の必要性は

今回の台風15号による千葉県を中心と大規模停電、東京電力の全面復旧情報も錯綜し、1週間を過ぎても11万戸の停電。気温が30度を超えた中で生活の悲惨な状況が連日報道された。何気なく使う

電気の有難さを改めて知る機会になった。私の幼年期は、エアコンや冷蔵庫が無いのは当たり前前の時代。文明社会になると人間自身が強くなってしまおうか。停電の原因として、送電線への風

害が想定以上の情報。他の電力会社の協力体制も、情報が混乱し、効率よい作業とはならなかったようだ。また、停電により浄水施設の稼働が出来なくなり断水も長期間住民を困惑させた。

大北地域も他人事ではない。「経験した事のない」とか「50年に一度」の災害に見舞われる可能性は誰もが否定できないだろう。特に心配なのが雪害だ。これまで経験した事のない降雪量に遭遇した

時の対策は、災害発生から対応できるものではない。しかし現有する電線に影響するだろう樹木が、地域に至る所に見る事ができる。電力事業者等の対応に委ねるだけでは、解決できるはずもない。行

政と地域住民が協力し合いながら現況を把握して事前に対応する事が求められている。いざ長期の停電状況が発生すると、水道施設の揚水ポンプが稼働せず、断水する事は明白

だ。当たり前の生活を継続できる地域を平時時から考えるべきなのだろう。
(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



電線に覆いかぶさる樹木の現場が多すぎだ